

■1945年の7月16日は、アメリカがニューメキシコ州アラモゴルドで、原子爆弾実験に成功の日。



■「はらまち九条の会」は、戦争放棄の憲法第9条を護って「戦争をしない国・日本」をめざし支持政党や主義主張を問わない、自由な市民の会です。平和を望む方なら、どなたでも、どこに住んでおられようと会員になれます。■結成は05年12月。会員は南相馬市原町区を中心に438名。年会費千円。■3.11の大震災後、「はらまち九条の会」は、「事故の福島第一原発に世界一近い『九条の会』」を自覚して活動しています。

集団的自衛権の「憲法解釈変更」 マスコミに騙されるはもうたくさん!! 各新聞社により「反対」だった「賛成」も

■私たちは原発の「安全神話」報道にすっかり騙され、震災後も「原発は収束」「汚染水はコントロール」「電気は足りない」など、ウソの報道は依然として続いています。■毎日の「新聞」も政治・経済・社会問題について、「新聞社」により見解の相違があるのが当然ですが、それを考えながら読みたいものです。■7月1日、国民注視の中で安倍内閣は集団的自衛権が使えるように憲法解釈を変更する閣議決定を行いました。各「新聞社」の主張は<下記表>の通りです。■各テレビ局の報道も同様のようです。

▼2014年7月9日『朝日新聞』のコピー

「新聞」や「テレビ」の報道・解説を鵜呑みにしてはいけませんね

集団的自衛権

朝日・毎日・東京新聞は反対
読売・産経新聞は「憲法解釈変更」に賛成
地方紙の40紙が反対 3紙が賛成
「福島民友」は賛成で、全国的に注目されました

憲法解釈変更への賛否と各紙の主な社説	朝日	×	法治国家としてとるべき憲法改正の手続きを省き、結論ありきの内輪の議論で押し切った(中略)国会のオープンな議論と専門家による十分な論争、そして国民投票での了承をへることなしにはあり得ない
	毎日	×	「国の存立」が自在に解釈され、その名の下に他国の戦争への参加を正当化することは、あってはならない。同盟の約束から参戦し、「自存自衛」を叫んで滅んだ大正、昭和の戦争の過ちを、繰り返すことになるからだ
	読売		行使容認に転じたことは、長年の安全保障上の課題を克服したという意味で画期的である(中略)「戦争への道を開く」といった左翼・リベラル勢力による情緒的な扇動も見当違いだ
	日経		アジアの安定を守り、戦争を防いでいくうえで、今回の決定は適切といえる(中略)米国の警察力が弱まった分だけ、他国がその役割を補い、平和を守るしかない
	産経		行使容認を政権の重要課題と位置付け、大きく前進させた手腕を高く評価(中略)仲間の国と助け合う態勢をとって抑止力を高めることこそ、平和の確保に重要である
	東京	×	憲政史上に汚点を残す暴挙だ(中略)正規の改正手続きを経て、国民に判断を委ねるのならまだしも、一内閣の解釈変更で行われたことは、憲法によって権力を縛る立憲主義の否定にほかならない
	北海道	×	なし崩し的に自衛隊の海外での武力行使に大きく道を開く内容だ。政府は憲法の解釈変更と言うが、憲法の破壊に等しい
	信濃毎日	×	平和憲法の下、歴代政府が「認められない」としてきたことを認める。安倍晋三首相は「基本的な考え方は変わらない」としたけれど、改憲に等しい大転換だ
	北国		日本が他国の戦争に加担したり、自衛隊が国軍化して歯止めが効かなくなるなどの主張は、現実感のないプロパガンダとしか思えない。集団的自衛権を抜きにしても、中国や北朝鮮の脅威から国民を守ることができるといふなら、その論拠を示してほしい
	西日本	×	国民に定着した憲法解釈を一内閣の裁量でひっくり返してしまう短絡と無謀、密室の与党協議で先に決めて国会審議と国民への説明を後回しにする倒錯と専横(中略)疑問と矛盾に満ちた閣議決定

憲法解釈の変更による集団的自衛権の行使容認に対する賛否(賛成=○、反対=×)を各紙にアンケート、空欄は答えず「紙面で掲載している通り」という旨を回答。2日付の社説(産経は「主張」)をもとに作成

○「日課です朝日産経読み比べ」という川柳もありました。普通、家庭では一紙の購読で、大新聞や地方紙を読み比べることはできず、図書館などに通うのも難しい。でも現在は「インターネット」という便利な方法で比較ができますし、ユーチューブの映像も本当に便利です!



会員や市民の皆様から



「安倍はキモい。嫌いだ」

■私の息子は中学1年生ですが、「みんな『安倍はキモい。嫌いだ』って言っているよ」とのことです。庶民的な住宅街の中学生でも、最近のキナ臭さをキャッチしています。

ところで私の愛するジュリー（沢田研二）はコンサート会場でいつも反原発の署名を集めています。そして何と今年10月、原町の「ゆめはっ」とでコンサート※を行います。ジュリーは震災前には憲法9条を守ろうという『我が窮状』を歌い、震災後は被災地への祈りと脱原発をリリースし、今年は『三年想いよ』を発表しています。テレビでへらへらの無節操なタレントや芸能人とは全く違います。

※ 沢田研二LIVE2014三年想いよ

○10月8日(水)18:30～ ○全席指定

○南相馬市民文化会館(ゆめはっ)

(相模原市 高橋与実さん・原町区出身)

■「集団的自衛権」の閣議決定や「川内原発」の再稼働等々、許し難いニュースが相次ぎ腹立たしい日々を送っています。生命、人間より金、金、金がすべてで、後の世代のことなど知ったことではない、と恐ろしい事態が進んでいます。

さて「憲法9条にノーベル賞」の署名を同封させていただきました。また私は長年、「仙台筋弛緩剤冤罪事件」「大阪東住吉冤罪事件」などの支援を行っていますが、なかなか社会にも関心が深まらず、苦慮しています。(福島市 Wさん)

東京五輪より原発の収束を

■昨年夏の事故原発のがれき処理で、南相馬市のコメからセシウムが出たというニュース、これほど南相馬市民や福島県民を馬鹿にした話はありません。昨夏のことなのに、東電も農水省も知っていて公表も連絡もない。3年前のスピーディの公表無しとまるで同じだ。

生活している私たち南相馬市民の頭の上に、たった4時間で4兆ベクレルの放出。子どもも妊婦もいるのに。これが東京や大阪だったら。

事故の原発は今も毎時1千万ベクレルの放射性物質を放出し、毎日400トンの汚染水を出しています。東京オリンピックどころではない。すぐに返上し、原発こそ収束するべきです。

福島県選出の国会議員たちは、一体何をやっているのか。みんな安倍首相の腰巾着でふにゃふにゃの保身ばかりで情けない。(原町区 Yさん)

■7月下旬、東京後楽園の涵徳亭で開催の講師神田香織さんの出版記念会へ出席。大津に避難している青田恵子さん(会員)も相馬弁の詩を朗読していました。(さいたま市 Aさん・小高区)

■先日の『朝日新聞』トップに掲載されていましたが、南相馬市でも吉永小百合さんの原爆詩朗読会を開催したいですね。(原町区 Oさん)

「新聞折り込みチラシ」は良かった！

「物事は一人から始まる」という言葉があります。会員のSさんからの提案で「集団的自衛権の反対チラシ」を6月、新聞に折り込みました。好評のようでした。

カンパもありがとうございました

■いつもお世話様です。チラシの内容がいいので、私たちの会のニュースの裏ページにコピーを載せさせてください。(原町区 Mさん)

■いつも会報を有難うございます。さて「集団的自衛権」に関して意見広告のチラシを折り込むとの事、カンパをお送りします。(藤沢市 Kさん)

■会報で貴重な情報をありがとうございます。カンパ送ります。(会津若松市 Yさん)

■最近ニュースを本当に見たくない。安倍や石破、菅たちが言っていることは、国民をだます、矛盾していてウソばかりで狂っている。テレビにあの顔が出て来たらすぐテレビを切ります。(原町区 Sさん)

■只今会報が届き、すみからすみまで読ませて頂きました。それで私の出来ますことはささやかなカンパを、と言うことで少しでも協力させて下さい。(仙台市 Nさん)

■会報の「九条はらまち」がんばっていますね。自民党の独走をどうい止めたらいいのか。野党は国会外に出て、市民運動を起こしてくれればいいのにとおもいます。(相模原市 Oさん)

■コープふくしま平和委員会では、今こそ「憲法とは何か」を理解して変える・変えない論議に花を咲かせていて、暮らしの中から人権を考えていく事が必要だと痛感しています。また9条は私達が守るのではなく、国に守らせるものである、を伝えていかなければなりません。また、今回同封の「あすわか」の「集団的自衛権」のパンフレットは絵で、分かり易い解説で役立ちます。(郡山市 Kさん)

■6月は国会議事堂前のデモに、何回も行きました。6月10日は大江健三郎さん等主催の「九条の会十周年」の行事に参加しました。会報No.240『異常な状況を見に来てください』の呼びかけにあるように、今年は南相馬市などの被災地を訪ねたいと考えていますが、身体が悪く、長時間のバスはお医者さんから止められていて行けません。(町田市 Kさん)

■チラシ、いい内容でまとめていただいて、ありがとうございました。(原町区 Aさん)



■新聞折り込みチラシは、時機を得ていて、手早く、広く、すばらしいです。(原町区 Aさん)